

第2期「大阪府まち・ひと・しごと創生総合戦略」（素案） 抜粋版

～ まち・ひと・しごとの好循環の確立をめざして ～

2019年（令和元年）11月時点

大阪府

1. 基本方針

[1] 第2期総合戦略について

- 大阪府では、今後本格的に到来が予想される「人口減少・超高齢社会」においても、持続的発展を実現するために、『大阪府人口ビジョン』において、中長期の人口見通し等を取りまとめるとともに、3つの取組みの方向性を位置づけました。
- これを踏まえ、『大阪府まち・ひと・しごと総合戦略』を策定し、2015年度から2019年度までの5年間でめざすべき方向性や施策をとりまとめ、取組みを進めてきました。
- めざすべき方向性の実現には、各施策の効果がすぐにあらわれるものではなく、継続した取組みが必要です。『第2期総合戦略』においても、これまでの3つの取組みの方向性を継続し、施策を推進していきます。



- また、3つの方向性を推進していくため、第1期総合戦略で位置付けた6つの戦略は維持しつつ、第1期総合戦略の振り返りや新たな動きを活かし、以下の新たな視点を加え、取組みを推進・加速化していくことにより、計画終了翌年の2025大阪関西万博の開催に相応しいまちづくりを形成していきます。

第2期総合戦略で盛り込む新たな視点

- ◎ 万博のインパクトを活かした取組みの推進
- ◎ SDGsを先進的に推進し、世界にも貢献
- ◎ スマートシティ実現に向けた取組み
- ◎ 外国人材の活用
- ◎ 環境にやさしい都市の実現

1. 基本方針

[2] 計画期間

2020(令和2)年度から2024(令和6)年度までの5年間とします。

[3] 総合戦略の推進

- まち・ひと・しごとの好循環の確立をめざして、毎年度、KPIの到達状況を確認・検証すること（PDCAサイクル）を通じて、各政策をブラッシュアップし、真に効果の高いものにしていきます。

(a) PDCAサイクルの確立

- 6つの基本目標ごとに施策（事業）がどれくらい進捗しているかを客観的に判別しやすくなるよう、できるだけ数値を用いて、KPI（重要事業評価指標）を設定しています。
- 地方創生の実現は、息の長い取り組みが必要です。これらの指標（KPI）をもとに、施策（事業）の効果を定期的に検証することで、「まち」「ひと」「しごと」の好循環の確立に向け、より効果の高い事業への重点化、見直し、組換えを行い、「具体的目標」の達成に向け、取り組みを進めていきます。

(b) 推進にあたって

- 「具体的目標」については、毎年「産官学金労言」の各分野の有識者等で構成する「大阪府まち・ひと・しごと創生推進審議会」において、進捗状況の確認・検証を行い、必要な見直しを行います。
- 各施策については、実施部局が毎年KPIの検証を行い、より効果の高い事業への重点化、見直し、組換えを行います。
- 地方版総合戦略のもう一つの策定主体である大阪府内の市町村との適切な役割分担や連携のもと、オール大阪で地方創生の取り組みを推進していきます。

2. 基本目標・基本的方向

○ 基本目標・基本的方向の枠組み

黒字：第1期から継続する方向
赤字：第2期で追加する新たな取組

I) 若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現

①若い世代の就職・結婚・出産・子育ての希望を実現する

- (1) 若者の安定就職支援、職場定着支援
- (2) 女性の活躍推進 **+ワークライフバランスの推進**
- (3) 結婚・妊娠・出産・子育て環境の充実

万博

SDG s

スマートシティ

②次代の「大阪」を担う人をつくる

- (1) 次代を担う人づくり **+グローバル人材の育成**
- (2) 子どもをめぐる課題への対応
+子どもたちの成長を支えるセーフティネットや教育の充実

II) 人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり

③誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり

- (1) 健康寿命の延伸 **+健康アプリ「アスマイル」の展開**
- (2) 高齢者等がいきいきと暮らせるまちづくり
- (3) あらゆる人が活躍できる「全員参画社会」の実現

+誰もが活躍できる環境整備(外国人材の活用等)

万博

SDG s

スマートシティ

④安全・安心な地域をつくる

- (1) 安全・安心の確保 **+ソフト・ハード両面から災害対応力を強化(強靱化の取組)**
- (2) 都市基盤の再構築
+環境にやさしい都市の実現

III) 東西二極の一極としての社会経済構造の構築

⑤都市としての経済機能を強化する

- (1) 産業の創出・振興 **+イノベーションの推進(大阪産業局と連携した企業支援の強化等)**
- (2) 企業立地の促進
- (3) 活力ある農林水産業の実現
- (4) 多様な担い手との協働

万博

SDG s

スマートシティ

⑥定住魅力・都市魅力を強化する

- (1) 定住魅力の強化
- (2) 都市魅力の創出・発信
+百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録を活かした魅力発信
+民間活力による新たな公園管理制度

2. 基本目標・基本的方向

◎重点取組方向について

2025大阪・万博を契機として、さらなる成長や世界の課題解決につながる取組を推進するため、第2期総合戦略では、万博のインパクトを活かした取組、SDGsの推進、スマートシティの実現に向けた取組について、重点的に取り組んでいきます。

※今後の検討状況を踏まえて、変更の可能性あり

◎万博のインパクトを活かした取組

- 大阪の成長・発展のためには、万博開催・成功を一過性のものとせず、そのインパクトを最大限に活かすことで、将来に向けた「大阪の成長」「府民生活の向上」に確実につなげていかなければなりません。
- そのため、万博本体と連動し、国内外から来阪される多くの方々を安全・安心、快適な環境のもと受け入れられるよう、交通アクセス等の整備や災害・危機管理事象への対応などに全力で取り組んでいきます。
- あわせて、万博のインパクトを活かして、SDGs やスマートシティの取組みとの整合性を図りながら、広く府域で未来社会を先取りした施策等を重層的に展開していくことで、万博のレガシーを活かし、大阪の持続的な成長や府民の暮らしの安全・安心、利便性の向上を実現していきます。
- 万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の実現に向けて、地域の健康づくり活動に加え、革新技術を最大限生かし、“10歳若返り”の取組みを、府内市町村や企業と連携して充実・連携していきます。

※今後の検討状況を踏まえて、変更の可能性あり

◎ SDGsの推進

- SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された「我々の社会を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」で設定された国際目標で、2030年までに達成すべき17のゴールと169のターゲットで構成されています。
- かけがえのない地球を守り、持続可能な経済・社会・環境をどう実現していくのか、私たち一人一人が考え、それぞれが17のゴールのうち身近なもの、強みを活かせるものなどから、まずは行動を始め、更に周りといっしょになって活動を広げ、目指していく目標です。
- SDGsの取組みは、大阪が未来に向かって持続的に成長し、府民一人ひとりが「豊かさ」や「安全・安心」を実感できる社会へと発展するための基盤づくりにつながるものです。また、SDGsの基本理念である「誰一人取り残さない」社会を実現するためには、府民や企業、市町村など、あらゆるステークホルダーのSDGsへの参画が不可欠となります。
- 大阪府では、こうした観点から、世界の先頭に立ってSDGsに貢献する「SDGs先進都市」をめざすこととしており、本総合戦略では、SDGsの理念を踏まえ、「人口減少、超高齢社会」の中においても、真に持続可能な発展を実現できるよう、取組みを推進します。



2. 基本目標・基本的方向

◎ スマートシティ実現に向けた取組

※現時点の状況であり、今後の検討状況を踏まえ変更いたします。

- 2025年大阪・関西万博の開催や人口減少・超高齢社会の到来を見据え、住民の生活の質（QoL）の向上や都市機能の強化を図っていく上で、AIやIoTなどの先端技術を活用した「スマートシティ」の実現は不可欠です。
- そのため、最先端技術のショーケースとなる2025年大阪・関西万博を大きなインパクトとしながら、府域全体で先端技術の利便性を住民に実感してもらえるような都市をめざすため、3つの基本姿勢に基づき、「大阪モデル」のスマートシティ実現をめざします。
 - (1)住民が実感できるかたちで、「生活の質（QoL）の向上」をめざす
 - (2)公民連携による「民間との協業」が大前提
 - (3)「技術実験」に留まらず、「社会実装」のための取組みを蓄積
- また、「スーパーシティ」構想等により大胆な規制緩和を実現し、万博に向けた未来社会の実験場である夢洲等において、企業・研究機関等での最先端の研究開発・技術開発を加速していきます。

大阪・関西万博に向けた取組み

2025年大阪・関西万博に向け、大胆な規制緩和等を活用することにより、「未来社会の実験場」にふさわしい、世界に類のない最先端技術を実証・実装。

大阪府域全体の取組み

住民生活の質（QoL）の向上や都市機能の強化を図っていくため、世界の先進都市等の事例も参考にしながら先端技術を積極的に活用し、スマートシティの基盤を確立。

大阪モデルの
スマートシティの実現

2. 基本目標・基本的方向

I. 若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現

基本目標①：若い世代の就職・結婚・出産・子育ての希望を実現する

若い世代の経済的安定や結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援により、結婚・出産・子育ての希望が実現できる環境を整備します。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

		外部環境	
		強み	弱み
		<ul style="list-style-type: none"> 人口が集積している 企業が集積し、多様な求人がある 大学進学や就職を機に転入者が多い 2025大阪・関西万博の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 合計特殊出生率が低い 若者の非正規雇用が多く、収入が低い 女性の就業率、出産後の再就職率が低い 子育ての負担感が強い
内部要因	強み	<ul style="list-style-type: none"> 産官学の連携が容易 	<ul style="list-style-type: none"> 企業・大学等と連携したビジネスマッチング
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> 求人求職のミスマッチがある ワーク・ライフ・バランスの浸透が不十分である 女性労働者の受入体制が不十分である 保育施設が不足している 小1の壁がある 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育て支援の取組（多様な保育の充実） 若年者の安定した雇用・職場定着支援 女性の職域拡大 放課後児童クラブの拡充

<基本的方向>

(1) 若者の安定した雇用支援

(若者の安定した就職支援、職場定着支援 高校生に対する府内中小企業の魅力発信 等)

(2) 女性の活躍支援 (ワーク・ライフ・バランスの推進、女性の職域拡大 等)

(3) 結婚・妊娠・出産・子育て環境の充実 (子ども・子育て支援新制度、放課後児童クラブ等の拡充・事業所内保育施設の開設支援 等)

2. 基本目標・基本的方向

I. 若者が活躍でき、子育て安心の都市「大阪」の実現

基本目標②：次代の「大阪」を担う人をつくる

虐待や貧困の連鎖、学力・健康問題など、大阪が抱える負の連鎖や課題を解消するとともに、次代の大阪を担う人づくりを進めます。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

外部環境

強み

- ・公立高校と私立高校の切磋琢磨
- ・大学等進学率が全国平均と比較して高い
- ・大学や職業教育機関の集積
- ・2025大阪・関西万博の開催

弱み

- ・高卒者の就職内定率が全国平均と比較して低い
- ・刑法犯少年の検挙・補導人数
- ・中退・不登校等の割合が全国平均と比較して高い
- ・年収300万円未満の世帯の割合が高い
- ・貧困の連鎖の存在

強み

- ・多様な教育環境（豊富な教育ストック、幅広い学びの提供など）
- ・授業料無償化制度による生徒の選択機会の確保

弱み

- ・全国学力・学習状況調査では改善が見られたものの、全国平均を下回る
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において小・中学校とも全国平均を下回る

内部要因

・グローバル人材の育成

・生きる力をはぐくむ教育

・少年非行等への対応

・児童虐待の発生予防（重大な児童虐待「ゼロ」を目指す）

・小・中学生の学力向上を図る

・小・中学生の体力向上を図る

・生きる力をはぐくむ教育

・地域の特色を活かした教育の実施

<基本的方向>

- (1) 次代を担う人づくり（学力・体力の向上、生きる力をはぐくむ教育、グローバル人材の育成 等）
- (2) 子どもをめぐる課題への対応（少年非行等への対応、児童虐待の発生予防、地域の特色を活かした教育の実施 等）

2. 基本目標・基本的方向

Ⅱ. 人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり

基本目標③：誰もが健康でいきいきと活躍できる「まち」をつくる

現在進行している人口減少・超高齢社会においても、あらゆる人が健康でいきいきと活躍できる社会の実現をめざします。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

		外部環境	
		強み	弱み
内部要因	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者の存在 ・NPOの活動の多様性 ・2025大阪・関西万博の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護需要の増大 ・社会保障費の増大 ・高齢者の社会的孤立の進展 ・非就労者の多様な課題
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・高度な医療機関等の集積 ・全国に先駆けた障がい者施策、支援教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療構想の実現
		<ul style="list-style-type: none"> ・若者・女性・高齢者・障がい者などあらゆる人が活躍できる環境づくりの実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善 ・健（検）診の促進 ・地域包括ケアシステムの構築 ・個々の状況に応じた就業支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・10歳若返りの取組 ・先端技術の活用による住民生活の質の向上 ・若者・女性・高齢者・障がい者などあらゆる人が活躍できる環境づくりの実現 ・全ての人の人権が尊重される社会の実現 ・外国人材の円滑な受入れ促進 	

<基本的方向>

- (1) 健康寿命の延伸（健（検）診の促進、生活習慣の改善、健康アプリ「アスマイル」等）
- (2) 高齢者等がいきいきと暮らせるまちづくり（地域包括ケアシステムの構築、地域医療構想の実現、先端技術の活用による住民生活の向上 等）
- (3) あらゆる人が活躍できる「全員参画社会」
（若者・女性・障がい者などあらゆる人が活躍できる環境づくりの実現、
全ての人の人権が尊重される社会の実現、外国人材の円滑な受入れ促進 等）

2. 基本目標・基本的方向

Ⅱ. 人口減少・超高齢社会でも持続可能な地域づくり

基本目標④：安全・安心な地域をつくる

防災・治安の確保に向けて地域力の強化を図るとともに、公共施設等の利活用・長寿命化などを通じて、人口減少社会においても安全・安心で快適な都市基盤整備の最適化を実現します。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

		外部環境	
		強み	弱み
		<ul style="list-style-type: none"> ・2025大阪・関西万博の開催 ・G20サミットにおいて「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・突発的で局地的な集中豪雨が頻発 ・台風被害や猛暑など気候変動の深刻化 ・ひったくりや特殊詐欺、性犯罪が高水準で推移 ・交通事故の多発
内部要因	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に先駆けた「逃げる」「凌ぐ」「防ぐ」の総合的な災害対策 ・安全なまちづくりに向けた警察との連携 ・プラスチックごみゼロ宣言 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した治安の確保・防犯力向上 ・少年非行等への対応
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ巨大地震による被害の想定（ゼロメートル地帯に人口・資産が集中） ・高齢化等による地域の防犯・防災力低下 ・全国最大規模の密集市街地の存在 ・公共施設等の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害に備えた国土強靱化計画に基づく取組 ・関係市と連携した密集市街地の解消 ・地域の防犯防災体制の強化



<基本的方向>

- (1) 安全・安心の確保（南海トラフ巨大地震対策、プラスチック対策など環境にやさしい都市の実現、治安・防犯の推進 少年非行への対応 等）
- (2) 都市基盤の再構築（ファシリティマネジメントの推進、密集市街地の解消 等）

2. 基本目標・基本的方向

Ⅲ. 東西二極の一極としての
社会経済構造の構築

基本目標⑤：都市としての経済機能を強化する

東京圏への経済機能の流出に歯止めをかけるとともに、関西経済圏の中心を担う大阪において、東西二極の一極としての経済中枢機能、世界との交流窓口となる中継都市機能を強化します。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

		外部環境	
		強み	弱み
		<ul style="list-style-type: none"> ・わが国第二の経済都市圏 ・中小企業の集積 ・金融機関・大学・研究機関の集積 ・創業等の支援機能の集積（AMED創薬戦略本部、PMDA関西支部） ・2025大阪・関西万博の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴う労働力の不足 ・経営者・技術者の高齢化、後継者不足 ・環状交通ネットワーク機能が東京圏（・中京圏）と比較して低い
内部要因	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・民間など多様な担い手との幅広い連携・ネットワーク ・近隣の産業・研究クラスターとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術を活用した生産性の向上 ・外国人材の円滑な受入れ促進 ・広域交通インフラの整備
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・東京圏等への経済機能の流出抑制 ・イノベーションの創出、起業・第二創業 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市型農業の振興 ・農水産物、加工食品など特産品の海外展開 ・事業継承の支援 ・学生の流出防止

<基本的方向>

- (1) 産業の創出・振興（イノベーションの創出、起業・第二創業、先端技術を活用した生産性の向上、外国人材の円滑な受入れ促進 事業継承の支援 等）
- (2) 企業立地の促進（東京圏等への経済機能の流出抑制）
- (3) 活力ある農林水産業の実現（都市型農業の振興 農水産物、加工食品など特産品の海外展開等）
- (4) 多様な担い手との協働（民間など多様な担い手との幅広い連携・ネットワーク）
- (5) インフラの充実・強化（広域交通インフラ整備 等）

2. 基本目標・基本的方向

Ⅲ. 東西二極の一極としての 社会経済構造の構築

基本目標⑥：定住魅力・都市魅力を強化する

大阪の住みやすさを向上させ、その定住魅力を発信するとともに、大阪のブランド力を高め、都市魅力を創出・発信することで、内外からの集客を促進し、にぎわいと交流人口の拡大を図ります。

<関連するSDGsのゴール>



<現状分析>

		外部環境	
		強み	弱み
		<ul style="list-style-type: none"> ・居住部門が高い評価 (世界の都市総合ランキング：森記念財団) ・大都市としては比較的職住近接し、物価が安い ・外国人観光客の急増 ・百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録 ・2025大阪・関西万博の開催 ・テクノロジーの進化 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少による空家・空地の増大 ・観光資源の不足
内部要因	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的なまちなみや伝統的な祭りなど魅力資源の存在 ・大阪産（もん）、大阪製ブランド認証製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際エンターテインメント都市の創出 ・世界遺産を活かした観光の提案・発信 ・大阪特産品の掘り起し・商品力向上・新商品開発と海外展開
	弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・都市魅力のPRの弱さ ・外国人の受入体制が不十分 ・住民の高齢化、施設の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> ・寺内町など埋もれた観光資源の発掘 ・観光資源の魅力発信 ・外国人観光客の受入環境整備 ・スマートシティ推進による住民のQOLの向上 ・居住魅力の発信 ・空家の多様な活用 ・公共施設を活用した観光の提案

<基本的方向>

(1) 定住魅力の強化 (居住魅力の発信、スマートシティ推進による住民のQOLの向上、空家の多様な活用 等)

(2) 都市魅力の創出・発信

(外国人観光客の受入環境整備、国際エンターテインメント都市の創出、世界遺産を活かした観光の提案・発信、寺内町など埋もれた観光資源の発掘、公共施設を活用した観光の提案、大阪特産品の掘り起し・商品力向上・新商品開発と海外展開 等)